

令和7年度 学校経営計画に基づく各分掌の目標・計画

重点目標	分掌	具体的な方策	達成基準	中間達成状況	評価	年度末達成状況	評価
<p>(1)生徒の知識・技能や学習習慣の定着に繋がる効果的な指導方法の確立を目指して、教員の授業力・指導力の向上に取り組む。</p> <p>○生徒が第一に希望する進路の実現</p> <p>○年間計画を立てて取り組む教員の授業力向上</p> <p>○総合教育センターと連携したICT・遠隔教育システム活用の推進</p>	教務課	1年次生が新しい教育課程になることを機に、本校の教育目標に基づき、生徒の実態を深く理解し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業への質的転換を図るため、組織的・計画的な校内研修を企画・運営する。	12月に行う学校評価アンケート(教職員用)の「2. 研修・公開授業・授業評価・他校訪問などにより、生徒の学力向上に向けて、実態を踏まえた授業改善の取り組みができています。」において、「そう思う」と回答した教員の割合が A:70%以上 B:60%以上 C:60%未満	4月には新たに校内研修を企画した。1学期に3回、2学期に3回、それぞれにテーマを定めて、講演会、学習指導案の検討、研究授業及び研究協議等を行うよう計画した。 1学期のテーマを、本校の課題である「生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業」と設定し、県総合教育センターの協力も得て研修を実施した。 参加者が第1回は29名、第2回が19名、第3回が20名であり、組織的・計画的な研修として機能させることができた。	A	1学期に引き続き、計画に従って校内研修を実施した。 2学期のテーマは「学習指導要領を踏まえた学習評価の改善」と設定し、岡山大学学術研究院教育学域教授 宮本浩治 先生のご指導のもと研修を実施した。1学期と同様に、第4回を講演会、第5回が学習指導案の検討、第6回を研究授業及び研究協議を行ったが、それぞれの参加者が、26名、26名、18名であった。 学校評価アンケートでは、「研修・公開授業・授業評価・他校訪問などにより、生徒の学力向上に向けて、実態を踏まえた授業改善の取り組みができています。」の項目において、「そう思う」と回答した教員の割合が89.3%であり、授業改善への意識が高まった。授業の質的転換、指導力の向上に寄与することができたと思われる。	A
	進路課	・各教員の授業力および進路指導力向上のために、校内および校外における研修等への参加に計画的に取り組む。	・年4回以上、授業力および進路指導力向上の研修等に参加した教員の割合が70%以上。	○授業力向上を目指しての教員研修について、8月までに校内・校外を合計して3回以上参加した教員が大半である。12月までに4回以上の参加を呼び掛けている。 ○業者がおこなう授業力向上のための教員向け研修(有料のもの)について、昨年度よりも参加人数を増やした。 ○大学説明会に、8月までにのべ10名の教員が参加した。得られた情報をまとめ、閲覧することで共有している。	A	○授業力および進路指導力向上のための教員研修について、参加回数は大半の教員が4回を超えた。平均は14回である。 ○教務課主催の授業力向上研修への参加は、6回中平均4回となった。出張や授業と重なった教員もいる中で、参加可能な教員はほとんど参加できた。 ○所属年次以外の進路検討会への参加回数は平均2.6回(これまで4回開催)、進路講演会や小論文講演会への参加も1.9回(これまで2回開催)と参加率が高かった。本年度3年生の総合型、学校推薦型選抜の合格率が高く、研修の内容が生徒の指導に反映できていると分析する。	A
	進路課	・教員間で進路指導や入試に関する情報共有を密に行う。また、きめ細かい学力分析を行い、生徒の学力向上につなげる。 ・就職志望者に対する情報提供を行い、適切な企業選択が行えるようにする。	・外部模試の結果(ベネッセGTZ)による分析における累積人数・割合がS3(難関大レベル):1名 A2(中堅国公立レベル):3% B2(国公立大レベル):25% ・進路指導の手引き作成と情報共有および利用。 ・就職志望者の内定率100%。	○全年次とも、毎日の授業や土曜日学習における学習指導、進路講演会や8月の東進講座等における学習意欲の向上の取り組みをおこなってきた。 ○7月進研記述の3教科総合(3年は5教科総合)の結果は次の通りであった。 下の人数は、実人数/目標人数 である。 1年 S3: 0名/1名 A2: 0名/3名 B2: 22名/22名 2年 S3: 0名/1名 A2: 3名/3名 B2: 15名/27名 3年 S3: 0名/1名 A2: 3名/3名 B2: 19名/27名 1年次生は、4月スタディーサポートにおいてB2以上が11名であり、今回倍増している。今後は習熟度別授業等を通じて上位をA2以上に伸ばすことを目標とする。 2年次生は、A1に1名、B3に19名存在する。特に、これらの目標ラインのすぐ下にいる生徒を引き上げを目指して指導を継続する。 3年次生は、2年次に比べてA2以上の人数が増加した。B2以上の人数は苦戦しているが、平日補習等の取り組みを継続し受験に向けた力の育成に注力する。 ○一般企業の就職試験が9月半ばから始まる。就職希望者は全員、応募前職場見学をおこない、ミスマッチを無くした上で受験先を決定した。	B	○11月進研記述模試の5教科総合(1年は3教科総合)の結果は、次の通りであった。 下の人数は、実人数/目標人数 である。 1年 S3: 0名/1名、A2: 4名/3名、B2: 30名/22名 2年 S3: 0名/1名、A2: 1名/3名、B2: 12名/27名 3年 S3: 0名/1名、A2: 4名/3名、B2: 19名/27名 1年のA2層とB2層、3年のA3層では目標を達成した。特に1年は7月に比較してA2、B2ともに人数が増加した。2年はB3層に13名が存在し、この層の生徒をB2以上に引き上げたい。習熟度別授業・個別添削・土曜日学習等を継続していく。 ○年度当初からの就職志望者10名(公務員2名を含む)の内定率は100%となった。	B
1年次団	○個々の能力や適性に合った進路目標を見出すために、面談を充実させ進路意識を高めさせる。 ○進路実現に向けて主体的に学ぶ姿勢を身に付けるために、ICT活用や夢手帳の効果的な運用を推進させ、さまざまな社会体験の機会を設け、実行させ、記録させる。	○進路に関するアンケート「学習に対する自分の努力」「自分自身の進路研究」の項目の「満足・やや満足」の計90%以上 ○担任・副担任・教科担任・年次主任による面談を年4回以上実施 ○地域貢献活動、体験学習、オープンキャンパスへの参加、またフィールドワークなどを年度内に行った生徒の割合100%	○9月中旬までに各クラスの担任・副担任で2回の面談を実施。学校生活に関することから、学習習慣、進路実現にむけてなど個々に合った面談を実施した。現在は文理・科目選択についての面談を実施し、ミスマッチがないように本人の意思を確認している。学年主任による面談は2学期に実施予定。 ○夏休み課題としてオープンキャンパスへの参加を課し、56.2%(50名)が参加。実際に大学・専門学校等に出かけ、体験を通して、進路意識が高まった。また、ボランティア等の校外活動に参加した生徒は36%(32名)が参加している。オープンキャンパスやボランティア活動、校外活動への積極的な参加も継続して呼びかけていく。	B	○担任・副担任が連携し、年間を通して各クラスで4回以上の面談を実施した。面談では、学校生活全般、学習状況、将来の進路に関する内容について、生徒一人一人の実態に応じた丁寧な指導を行った。特に、10月～12月にかけては科目選択に関する面談を検討会前後の2回実施し、進路情報の提供や今後の学習方針の確認を行った。また、11月以降は年次主任による面談を開始し、年度末時点においても継続的に実施している。 ○進路指導に関するアンケートは2月に実施予定。 ○地域貢献活動、体験学習等については、学年行事やHR活動と連動させて計画的に実施した結果、年度内に全生徒がいずれかの活動に参加することができ、目標とした参加率100%を達成した。これらの活動を通して、社会との関わりを意識し、自身の進路を考える機会を得ることができた。一方で、活動の目的や進路との関連について、より丁寧な事前・事後指導の必要性も明らかとなり、次年度の改善課題とする。	B	
2年次団	○個々の能力や適性に合った明確な進路目標を持たせるために、面談を充実させる。 (学年主任・教科面談を含む、担任団面談年間5回以上) ○進路実現に向けて、校外での様々な体験を通して自らの適性について考えるとともに、幅広い視野を持たせる。	○進路に関するアンケート「進路目標が明確になった」の項目の「なった・ややなった」の計90%以上 ○オープンキャンパス・ボランティア活動への参加、校外活動などを年度内に行った生徒の割合70%	○9月中旬までに各クラスの担任・副担任で3～4回の面談を実施。学校生活に関することから、学習習慣、進路実現にむけてなど個々に合った面談を実施した。今後は科目選択についての面談を実施し、進路情報の提供をしたり進路実現に向けての具体的な方針を確認していく。学年主任面談は3学期実施予定。 ○夏季休業中に多くの生徒(64%)がオープンキャンパスに参加し、より現実的な進路研究をすすめている。ボランティア等の校外活動に参加した生徒は38%と少ない。今後も呼びかけを工夫しながら、校外活動への積極的な参加を促していく。	B	○年間を通じて各クラスの担任・副担任で4～5回の面談を実施した。学校生活に関することから、学習習慣、進路実現にむけてなど個々に合った面談を実施した。10月～12月中旬にかけて科目選択についての面談を検討会前・検討会後の2回実施し、進路情報の提供をしたり進路実現に向けての具体的な方針を確認した。11月から年次主任面談は11月から学年末にかけて実施している。 ○進路に関するアンケート「進路目標が明確になった」の項目の「なった・ややなった」は合計83.9%であった。進路目標が定まっていない生徒に対しての指導が必要である。 ○オープンキャンパスへの参加は70.1%で、複数参加している生徒もいる。校外でのボランティアが困難な場合は、校内のボランティアへの参加を推奨したところ、64.4%の生徒がボランティア活動に参加した。春休み中のオープンキャンパスへの参加を呼びかけていく。	B	
3年次団	○個々の能力や適性に合った進路希望を実現させるために、面談を充実させる。 (担任面談年間4回以上) ○第一に希望する進路の実現に向けて、個別最適化された学習を推進し、個々の家庭学習の質・量を向上させる。	○進路に関するアンケート「勝山高校の進路指導について」の項目の「満足・やや満足」の計90%以上 ○第一志望合格率80%以上	○進路検討会、夏の三者面談の前後を中心に、随時面談を実施している。志望校および受験校の決定に向けて、担任・副担任によるきめ細かい指導ができていく。 ○就職に関しても、ハローワークの方からの説明会や個別の履歴書指導を通して、希望とする職業を選択できるよう促した。 ○進路指導に関するアンケートは3学期に実施予定。 ○第一志望合格率は3月上旬に判明。現在は就職試験、大学等の総合型選抜、学校推薦型選抜に向けて学校全体で個別指導を行っている。	A	○進路検討会、三者面談の前後を中心に、随時面談を実施した。また志望校および受験校の最終決定に向けて、担任・副担任によるきめ細かい指導を行うことができた。 ○就職に関しても受験した生徒は全員内定をいただいていたが、進学から就職に切り替えた生徒が1名おり、真庭市内の企業に応募中。 ○進路指導に関するアンケートは1/30の登校日に実施予定。 ○第一志望合格率は3月上旬に判明予定。1/27現在第一志望での進路先が決定した生徒の割合は82.2%(90名中74名)。なお、未受験者の17名を除く。先生方の個別指導のおかげで、国公立大学の学校推薦型選抜の合格率は75.0%(28名中21名)と非常に高い。	A	

令和7年度 学校経営計画に基づく各分掌の目標・計画

重点目標	分掌	具体的な方策	達成基準	中間達成状況	評価	年度末達成状況	評価
(2)地域の進学拠点校としての魅力ある高等学校づくりを図るため、地域・小中学校等との連携・協働による教育の推進に取り組む。 ○小学生・中学生とその保護者地域の方々や関係機関への教育活動広報の充実 ○地域をフィールドにしたPBLの充実 ○小中高大連携の強化充実と地域人材の活用(特に大学・高専との連携を強化) ○ボランティア活動の充実	教務課	各分掌と連携し、小学生や中学生・地域の方に参加を呼びかける行事を年間計画にまとめる。また、勝高VOICEの発行計画を作成し、適した時機に勝高VOICEおよび本校ホームページを用いて行事への参加を呼びかける。	A:作成した計画をもとに、的確な時機を得た広報活動を行うことができた。 B:作成した計画をもとに、幾分時機を得た広報活動を行うことができた。 C:計画を作成したが、時機を得た広報活動を行うことができなかった。または、計画を作成できなかった。	年度当初には、校外に周知する行事を選定し、勝高VOICEとホームページを用いた広報活動の年間計画を作成した。 広報計画に従って活動をし、勝高VOICEは1～3号を発行した。勝高VOICEには学校行事や生徒の活躍の様子に加えて、今後の行事のお知らせも載せるよう工夫した。ホームページでも、鼓山祭体育の部、吹奏楽部定期演奏会、オープンスクール等の情報をトップページに掲載し、時機を得た広報活動を行うことができた。	A	年度当初に作成した年間計画に従って広報活動を進めている。勝山高校説明会や高校入試に関する情報を適したタイミングで発信し、参加者を募ることができた。勝山高校説明会には、100名以上の参加申し込みがあり、年々増加している。 勝高VOICEは4・5号が発行済みであり、生徒の活躍の様子を広報することができた。このあと、6(夢現プロジェクト発表会)・7(卒業式)号を発行する予定である。 ホームページも随時更新をしている。行事のお知らせや日常的な発信に加え、今年度はトップページに「合格速報」を掲載した。3年生の大学等への合格状況を発信し、生徒募集へとつなげたい。	A
	生徒課	○ボランティアを通して個人の成長はもちろん、地域への社会貢献や地域の魅力再発見につながるよう、ボランティアへの積極的な参加を促していく。 ○Youtube, Instagram等のSNS媒体を通じた学校行事等の発信を年10回以上行う。	○ボランティアに関するアンケート「ボランティア活動を通して、地域への社会貢献や地域の魅力再発見につながった」の項目の「とてもそう思う・そう思う」の計が90%以上でA。60%以上でB。60%未満でC。 ○A: 学校行事等の発信を年10回以上 B: 学校行事等の発信を年5回以上 C: 学校行事等の発信が年5回未満	○ボランティアに参加して「良い学びができた」55.8%、「進路実現や将来に向けて非常に学びのある体験ができた」39.5%、合わせて95.3%という結果になった。(A)特に、保育や教育関連のボランティアに参加した生徒が良い感触を得たようだった。 →「保育士の仕事は楽しいだけでなく、命を預かる責任と覚悟がいることを知った。」 →「小学生対象の授業では、どのような説明だとわかりやすいか、何を一番学んでほしいかといった計画を立てることはすごく大変でした。」 今後生徒の学びを形にできるよう新聞などを作り、広報にも力をいれていく。 ○Instagramでの投稿は4～8月までで30回を超えた。(A)しかし、今年度より新しく始めたリール動画での投稿は体育祭の時の3本のみにとどまった。入学者を増やすために、動画発信を通してより多くの方に見ていただけるように、2学期ではリール動画の投稿を5本以上は行う。	A	○活動を通して、生徒は将来や進路を意識した学びを深めることができ、特に保育・教育関連のボランティアでは、仕事の責任や相手に分かりやすく伝える工夫の大切さを学ぶなど、実体験に基づいた深い学びが見られた。 年度末には、生徒の学びや気づきを広報誌「勝高VOICE6号」に掲載する予定である。 ○文化祭のカウントダウン動画やまとめ動画、夢現プロジェクトや教員紹介動画など、リール動画を2学期中に11本投稿した。また、Instagramでの投稿計画を見直し、入学者数を増やすことをコンセプトに計画的に投稿し、投稿回数も80回であった。(A)来年度も生徒会主導で新たにInstagramを活用した企画を行ったり、他校のSNS活用事例を調査して、より投稿の内容を充実させて積極的に発信していきたい。	A
	進路課	・1年次では校外学習や地域での活動を通して、幅広い分野に触れるとともに協働して学ぶ機会を持たせる。2年次では地域活動等への積極的な参加を促すとともに、課題研究を深めさせることで、思考力・判断力・表現力を養う。3年次では、学んだことを進路決定につなげていくための支援を行う。 ・朝読書の奨励、新聞(NIE)の活用により社会問題に対する関心を深め、思考力・判断力・表現力を養う機会とする。	・夢現プロジェクト実施アンケートで「研究内容が自分の進路研究に役立った」という回答の割合が7割以上	○1年次生は6月に一日校外研修を実施し、6グループに分かれて地元企業等を見学した。2学期より分野別探究活動を行っている。 ○2年次生は、課題研究に取り組んでいる。 ○3年次生では、生徒の進路実現に向けての支援を行っている。地域の方に直接話を伺ったりすることで、自分の進路に対してより明確な見通しをもつようになった生徒もいる。 ○社会問題等に対して生徒が興味を持つことを目標に、朝読書やNIEタイムの取り組みを継続している。	A	○各学年の総合的な探究の時間の主な活動は以下の通り。 ・1・2年次生では、分野別探究活動に取り組んでいる。1月に文化センターにて全体発表会を行った。アンケートの結果は以下の通りであった。 2年 大いに役立った 13.1% 役立った 46.5% やや役立った 32.3% 役立たなかった8.1% 1年 大いに役立った 35.0% まあ役立った 58.8% あまり役立たなかった 6.3% 全く役立たなかった 0% 「やや役立った」「まあ役立った」以上を合計すると、1年・2年とも肯定的な回答が90%を超えた。意識の大小に個人差はあるが、自らの進路を意識しながら探究活動を行うことができた。 ・3年次生では、生徒の進路実現に向けての支援を行った。12月末時点での国公立大学総合型・学校推薦型選抜合格者は24名と、ここ数年では抜きん出た結果となっている。 ○朝読書やNIEタイムの取り組みは、現在も継続中。	A
厚生課	○健康教育・安全教育に関する講演会等の実施 ・真庭警察署や真庭保健所、真庭市消防署等地域との連携を図る。 ・自殺予防教室、性教育講演会、がん教育講演会、防災訓練等を開催する。 ・ほけんだより、教育相談だより、防災新聞の発行、委員会の活動等による啓発活動を行う。 ・健康づくりに関する正しい知識を身につけ、自分の心と生命を大切にすることを意識を持った生徒を育成することを目指す。	・自殺予防教室、がん教育講演会、防災訓練において、「自分を大切にする」「自分の生命を守る行動ができる」という意識を持った生徒が90%以上	・1年次生対象の「自殺予防教室」アンケート結果 「様々な人生のリスクやストレスへの対処法として参考になった」96.2%、 「自分自身を大切にしようと思った」90.5% 生徒の自分自身を大切にすることを意識を持つ生徒の割合は9割を超えている。 ・「ほけんだより」9月現在No.4 「保健室利用方法・出席停止の案内」「校内AED」「熱中症予防」「感染症・歯周病」など 「ひより」No.3 「カウンセリングの案内」「外部相談機関の案内」など 「防災新聞」No.1 「緊急災害セットの紹介」 それぞれ時宜にかなう通信の発行ができています。	A	・3年次生対象「がん教育講演会」アンケート結果 「将来がん検診を受診しようと思った」95% 「自分自身を大切にしようと思った」97% 講演会等を通して自分を大切にすることを意識の確認の機会をえることができた。 ・「新聞・おたより」の発行 「保健だより」～No.7 「防災新聞」～No.6 「環境新聞」No.1 それぞれの発行は学校行事や感染症の流行時などの時宜にかなうものであった。その発行と共に委員会等の生徒の活発な活動がなされた。 ・校内研修や熱中症対策関連の校内での指針作成などをきっかけに校内での共通認識を持つことができた。	A	